

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「安心して幸せなくらしをしていただく」という理念に基づいて、ご利用者やご家族に安心していただけるよう日常生活の中で職員一同、理念の実践に取り組んでいる。	玄関や廊下に理念が掲示され、職員間での共有に努め、日々理念の「安心して幸せなくらしをしていただく」に沿った支援を心がけられています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭りに参加したり食事会を行い人々との交流を行っている。またボランティアの方達との交流も図っている。社会福祉法人として「すみれ保育園」が開設され園児達との交流も図っていききたい。	合同で行う法人行事等に地域の方に参加していただき、日常的に交流が図られています。ボランティアで、踊りや書道等の慰問を積極的に受け入れておられます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の方やご家族の方に日々の活動を報告し、また見学も行って頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方の意見や要望を聞き、サービスの向上に取り組んでいる。また、ご利用者の日常生活の様子を報告し外部評価の結果も公表している。参加者も増え理解が深まっている。	二か月に一回、町担当者や町会長、家族代表、民生委員等の方に参加していただき、会議を開催し、日頃のホームの活動内容や行事の報告を行い、質の向上に向け意見交換が行われています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	不明な事や判断に困ったことがあれば電話で相談したり、訪庁し指導や助言を受けている。運営推進会議にも参加していただき現状報告と意見の交換を行っている。	介護相談員の受け入れや月一回のひまわりカフェ等の機会を通じて、市の担当者とも日常的に連絡が取れるよう、関係づくりに取り組まれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっておらず、研修の場において職員に理解を求め日々の介護に取り組んでいる。ホーム内の研修も行っている。玄関の施錠も行なっておらずチャイムにて見守りをしている。	日常的に玄関の施錠はせず解放され、自由に出入りできる環境を作られています。一緒に外の遊歩道を歩かれたりする等、自然な形での見守りを心がけられています。		

7	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行なっていないが、職員間でも虐待が見過ごされることがないように研修を行い防止に努めている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方が1名おられ、実際に関わり情報提供を行っている。また、新人職員にも成年後見人の仕事について勉強を行っている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際は事前に説明を行い同意書にサインを頂いている。随時説明を行っている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付マニュアルを作成し、苦情受付箱を設置して苦情収集に努め積極的に対応している。ご利用者が気軽に不満や苦情を言える雰囲気にも努め信頼関係を作っている。	玄関に意見箱を設置し、面会時に職員が積極的に話しかけ、日頃から何でも話せる環境を作られています。又、年一回の家族会を開催し、意見や要望を聞き、運営に反映されています。	

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	月2回の運営会議を開催し、意見や提案を聞きGH会議やミーティングで意見交換をし反映に努めている。	毎月のGH会議で意見や要望を聞いておられます。会議に参加できない職員は事前に意見を出しておくなど、広く意見が集められるよう工夫されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い職員の努力が給料に反映されている。時間外は殆どない。資格手当等もあり向上心を持って働くことの出来る様務めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を含め各種研修には積極的に参加し、それを施設内研修で発表し日々の介護に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームと相互研修を行い、介護の向上に活かしている。また、良いところを学びサービスの向上に努めている。		

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者とゆっくりコミュニケーションをとるように心がけ、特に夜間に不安のないよう安心していただける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞き、何度も話し合い信頼関係を築けるよう努力している。また、常に話しやすい雰囲気作りにも心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く話し合い、どのサービスが本人に合っているか、またご家族が望んでいるかを話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者も職員も共同生活者であるという考えで家事などを一緒にしながら、お互いに学び合い支えあう関係作りをしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に対するご家族の思いを聞き、それに添えるよう支援し、意欲を引き出しながら本人を支えていける関係づくりをしている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	絵手紙や年賀状で本人の作品を送り、馴染みの方と途切れないように努めている。また、面会時にはゆっくりと過ごして頂けるよう雰囲気作りにも心がけている	友人に手紙を書いたり、馴染みの散髪屋に行かれたりと、今まで大切にしていた関係が継続できるように支援されています。	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団欒時には、お互い話し合える話題作りをしたり、洗濯たたみなどのお手伝いでお互いに労わり支えあえる関係作りを支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も色々な相談や支援に努めている。出先で、ご家族様に会ったときは様子を伺ったりしている。また他施設から入居された場合は現状報告をしている		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味を活かし、好きな事をしていただきながら、日々生活をしている。困難が生じた時は本人と良く話し合いご家族からも情報を頂き、その人らしい生活が送れるよう支援をしている。	入居時に本人や家族からの聞き取りで、趣味等を継続できるように支援されています。又、日常の関わりの中で、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族やこれまでに関わられたケアマネジャーに、本人の生活歴や情報をできるだけ多く聞き対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、状況の把握に努めている。また引継ぎ時に現状報告をおこなっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意見を聞き、本人にとって何が必要か、カンファレンスや申し送りなどで出た意見を検討し介護計画に反映している。	本人や家族の意向、アセスメントや日々の記録をもとに、職員全員で意見を検討し、現状の即した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々の日誌に解りやすく記録しケアカンファレンスで情報を共有し介護計画に反映している。ケアチェック表を利用して計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせ、その時の状況に合ったケアを実践している。法人内の他事業所の行事にも参加するなど多くの交流を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しボランティアの方に来所してもらったり、消防による避難訓練の指導をして頂き、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療が必要なときは、まずご家族に連絡し適切な医療を受けられるよう支援している。急な通院の場合は職員が代行支援を行なっている。	協力医療機関の往診により、日々の状態に合わせて適切な医療が受けられるよう支援されています。希望があれば、かかりつけ医の継続や通院の支援も行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護ステーションとの契約により、往診時以外でも利用者の事は気軽に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した時は、定期的に面会に行きご利用者の状態を聞き医療従事者と話し合い出来るだけ早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成している。ご本人にとってよい方法（環境）について、ご家族と話し合っている。主治医と連携を密にしている。	ホームでの看取りも可能で、看取りに関する指針が作成され、本人の状態を確認し、家族と話し合いを持たれ、方針を決定されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故を未然に防ぐためにも、専門知識をもとに経験を積み重ね応急処置の方法を心得、マニュアルを把握しておくようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練とGH独自の避難訓練を定期的に行い、災害に対する意識を高めている。緊急マニュアルと連絡網を作成している。大原地区との協力体制も計画中です。	年二回の消防訓練を実施され、夜間想定や同敷地内のケアハウス、特養と合同で訓練が行われています。また、GH独自の避難訓練も定期的に行い、職員の災害対策への意識を高められています。	

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように、ご利用者と温かい交流をもってもらえるように言葉使いに気を付けている。プライバシーの確保に注意し、面会は居室内で行ってもらっている。	個人を尊重した関わり方が様子からもうかがえ、やさしく丁寧な言葉かけで支援されています。	昼夜問わず、居室の扉がオープンになっており、外からいつでも見れる状態にあります。プライバシーの観点から、居室での過ごし方等について、再度検討をされてみてはいかがでしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お互いの信頼関係を深め、相手の話を良く聞くように努力している。また、一人ひとりが自分で決定できるような場面を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を尊重しながら、希望に添えるよう努力している。体調や気持ちに配慮しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの物を選んでもらっている。月末に理容師の訪問があり利用者ご自身でヘアスタイルを決めてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	適温で配膳し、テーブルを囲み利用者と職員が一緒になって食事をしている。畑で取れた野菜で一品作りも行なっている。	基本的には給食ですが、取り分け、盛り付け、配膳など、できることは職員と一緒に行われています。イベントのケーキや野菜で一品を作ったりと楽しみの持てる食事を心がけておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	旬の素材を選び、献立にも季節感を出しています。利用者様の嗜好を尊重し栄養バランスを考えており、摂取量と水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しており、口腔内を清潔に保ち、食後はお茶を勧めて口腔内のケアを行っている。義歯の定期的な洗浄を行っている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握しその人に合ったトイレ誘導を行っている。	排泄パターンを知り、個々に応じた排泄方法で、その人に合った支援がなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維のある物を摂取していただき、腹部を「の」の字を描くようにマッサージをしている。頑固な便秘の方には医師との連携で薬を処方してもらっている。水分補給にも注意し、チェックを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴記録表を作成し入浴の順番や個々に合ったペースで入浴してもらっている。	週3回入浴を実施され、曜日や時間帯は決まっていますが、入居者のペースに合わせ、ゆったりと入浴できるように配慮されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い方には、ホールで一緒にテレビを観ながらお茶を出しコミュニケーションを図っている。天候の良い時は日光浴や散歩をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用は医師・看護師より常時説明を受けている。誤薬がないよう名前を確認を行いながら服用してもらっている。薬の変更があった場合は、情報を共有し服薬後の観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クラブ活動や、カラオケ、散歩、買い物など個々の趣味に合わせて、楽しんでもらっている。また、畑で農作物を育てている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候のよい日には、遊歩道を散歩したり、また近くのショッピングセンターに買い物に出かけて楽しんでもらっている。	施設内の遊歩道を散策されたり、おやつ等の買い出しに、近くのショッピングセンターに出かけられたり、日常的に外出できるように支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人の方にはお小遣い程度のお金は管理してもらっている。H26・8月より預かり金を廃止したためショッピング時には、家族より事前に頂き出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	絵手紙を描いてもらい、近況報告をしています。遠方の家族からの電話には本人と会話をしてもらっています。毎年、絵手紙による年賀状を出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁面飾り付けや食卓テーブルには、季節のお花を飾り快適な住まいに工夫をしている。	食堂兼リビングは、明るく、風通しがよく、ゆったりとしており、壁には、製作物や作品が飾られています。又、中庭があり、開放的で季節感の感じられる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に2人がけのソファを置き、ホールにはテレビとテーブルセットが置いてあり、お互いに使いやすく配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物を置き、家族と相談しながら使い慣れた物を持ち込んでもらっている。ドアが開いた状態でも、暖簾を使いプライバシーを確保している。	馴染みの家具や写真などを持ち込まれ、入居者が落ち着ける空間を家族と一緒に考えられ、工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で快適な居住環境で、衛生面にも気を配っておりADLに適した構造及び設備にしQOLを高めています。居室入り口には、写真を飾り自室が解りやすくしてある。		

アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	ほぼ全ての利用者と 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族が 家族の3分の2くらいが 家族の3分の1くらいが ほとんどできていない